



今の自分たちに何ができるのか

被災地のニュースが連日飛び込んできています。

死者は 200 人以上。

安否不明の方々も多数おられるとのこと。

社会科の時間を使って、あるいはそれ以外の隙間時間も使って、教室ではどんなことができるかを考えようとしています。

ちなみに現在の社会科では、「伝統工芸」や「特色ある地域」のことを学習しています。

教科書に主に載っているのは、宮城県の事例です。

「すずりを作る町・石巻市雄勝町」

「国際交流に取り組むまち・仙台市」

「美しい景観を生かすまち・松島町」

「古いまちなみを生かすまち・登米市登米町」

いずれも宮城県の事例を一貫して扱っていることには、幾つかの意味があります。

まず、「同じ県内でも地域によっていろんな特色がある」ことを学ぶためです。

日本には 47 の都道府県がありますが、その内のたった 1 つを取ってみても地域の特色は実に多岐に渡ります。

一つの件の中にもこれだけの特色があるのだということを、この単元を通して学んでいこうとしているわけです。

そして、宮城県を全国共通で扱う教科書に採用していることは、震災との関連があることも間違いありません。

実際に、教科書には次のような記述があります。

くりの見学 震災前の様子です。雄勝町では、すずりづくりを体験してもらったり、観光や宣伝のために雄勝すずり伝統産業会館を建てたりしました。また、筆や紙、すみをつくっている地いきと共同で「文房四宝まつり」というイベントを行うなど、産業を守ろうと努めてきました。

2 文房四宝まつりのポスター すずり、筆、紙(和紙)、すみを「文房四宝」と言います。

3 雄勝石が使われた東京駅の屋根

4 仮設工房

5 津波で流された雄勝石を拾い集めるボランティアの人たち

「すずりづくりの工房も道具もすべて流され、すずりづくりはできなくなりました。」

「様々な人々が、伝統的な雄勝すずりを守るために、協力して動き出しました。」

「2012年にできた新しい東京駅の屋根には、津波で流され、ボランティアが集めた雄勝石が使われました。」

「全国からたくさんの協力やおうえんがあって、やっとすずりづくりの準備を始めることができました。」

「伝統的な産業は、手づくりで行われることが多く、昔から受けつがれてきたぎじゅつをもった職人にさえられています。伝統的なぎじゅつをわかい職人に伝えていくことも大切です。」

「すずりづくりの工房も道具もすべて流され、すずりづくりはできなくなりました。」

「様々な人々が、伝統的な雄勝すずりを守るために、協力して動き出しました。」

「2012年にできた新しい東京駅の屋根には、津波で流され、ボランティアが集めた雄勝石が使われました。」

「全国からたくさんの協力やおうえんがあって、やっとすずりづくりの準備を始めることができました。」

災害の多い国である日本では、これまでも幾度となく壊滅的な被害にあう地域が生まれてきました。

現在は、それが石川県に起きているということです。

昨日の社会科の時間にも、石川県の伝統工芸のことを学びました。

https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005120130_00000



石川県にもたくさんの伝統工芸があることや、「金箔」という寺院や器の装飾に欠かせない材料はほとんど石川県で生産されていることなど、石川県の数々の特色について学びました。

その上で、です。

石川県の被災された方々のために、一体、今の我々にどんなことができるのか。

アイデアを生み出す時間もとりました。

この時に、「募金をする」という選択肢は一度外して考えることにしました。なぜならば、みんなはまだ働いてお金を得ているわけではないからです。もちろん、千羽鶴やお手紙などのアイディアについても補足しておきました。

東日本大震災の時に、思いの詰まった千羽鶴が現地の方々の頭を大変悩ませたこと。

何かを贈る時には、現地の人たちが本当に必要としているものは何かを考えることが大切であるということ。

また、物資を送る際の大切なマナーについても教えておきました。

寒いだろうからホッカイロ、赤ちゃんもいるだろうからおむつ、そして食料品を詰めて…と作った支援物資の段ボール。

これも、現地では大きな苦勞を生み出すことになります。

なぜならば、「現地で段ボールを開けて仕分けをする必要」が出てくるからです。

したがって、物資を送る際に必要なことは「一つの箱に 1 種類の品」を入れることです。

こうすれば、仕分ける必要が無く、そのまま被災地の必要な場所に届けることができます。

こうした諸々のことを学んだうえで、再度考えました。

今の状況で、自分たちに何ができるかを、です。

ノートに全員でアイディアを書いたところ、面白い考えがいくつか出てきました。

「石川県で買った物を他の人に売る」(村松くん)

「他の県の人に石川県の良さを知ってもらおう」(松田くん)

働いてお金を得ているわけではない小学生という立場で、現地の方々のために何ができるのか。

ぜひ、ご家庭でもいろんなアイディアや知恵を貸してもらえると嬉しいです。

☆ ↓ 読者ページはこちらから ↓ ☆ ご意見ご感想など気軽にお寄せください

<https://docs.google.com/forms/d/1qqf4cPLcjpcWaimWdu-6IFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit>

